建設業

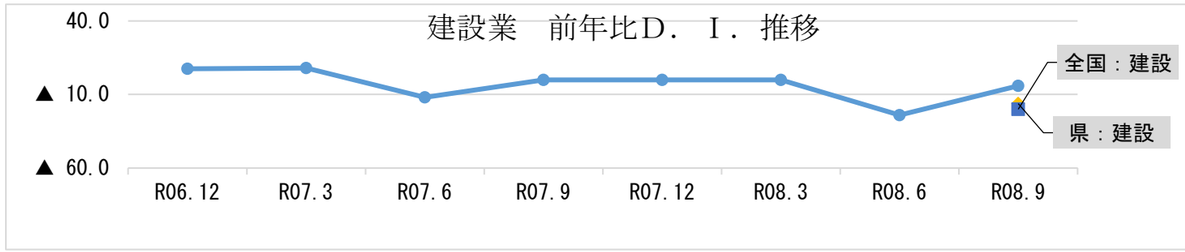
回答率：100%（25/25）

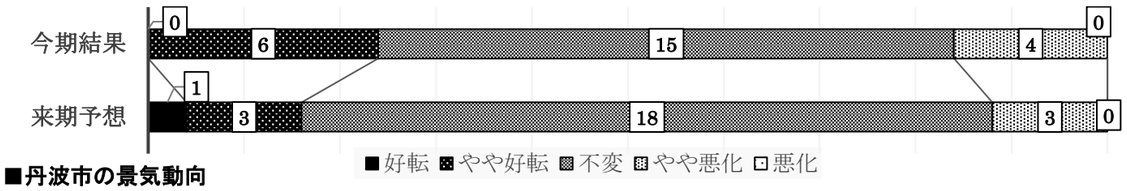




■丹波市の景況推移

今期は新築・公共工事の減少や資材高騰、人手不足が重なり、受注・収益ともに厳しい状況が続いている。来期も新築需要の回復は見込みにくく、公共工事の縮小も続くため、効率化投資を進めつつも、厳しい環境が継続する見通しである。





■丹波市の景気動向

【丹波市の今期の景況】

新築工事や公共工事の減少が続き、受注量・売上・利益ともに厳しい状況となっている。資材価格の高騰や金利上昇が重なり、新築需要は大幅に縮小。民間の小規模工事やリフォームへのシフトが進む一方、見積件数は例年より減少の傾向がみられる。

【丹波市の来期の景況予想】

来期も新築需要の回復は見込みにくく、公共工事の減少傾向が続くため、受注環境は横ばいからやや悪化が予想される。資材価格の高騰は継続し、固定費削減や効率化を図っての収益確保が引き続き課題となる。来期も慎重な業況が続くと予想される。

■全国の景気動向

受注は堅調に推移しているものの、資材価格や人件費の高止まり、人手不足、天候不順による工期遅延が利益を圧迫し、依然として厳しい経営環境が続いている。

■県下の景気動向

業況・売上額・収益のDIがいずれも前回より改善し、持ち直しの動きが見られるが、いずれもマイナス圏である。材料費や人件費などのコスト要因が収益を押し下げている可能性が高く、収益ＤＩは悪化する見通しである。

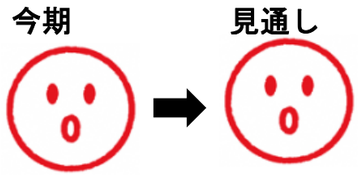
■地区ごとの回答（前年同期比）

	柏原	氷上	青垣	春日	山南	市島	合計	構成比
良い（増加＋やや増加）	2	1	1	1	1	1	7	28.0%
不変	0	7	0	2	1	0	10	40.0%
悪い（悪化＋やや悪化）	1	4	0	1	1	1	8	32.0%
合計	3	12	1	4	3	2	25	100.0%

製造業

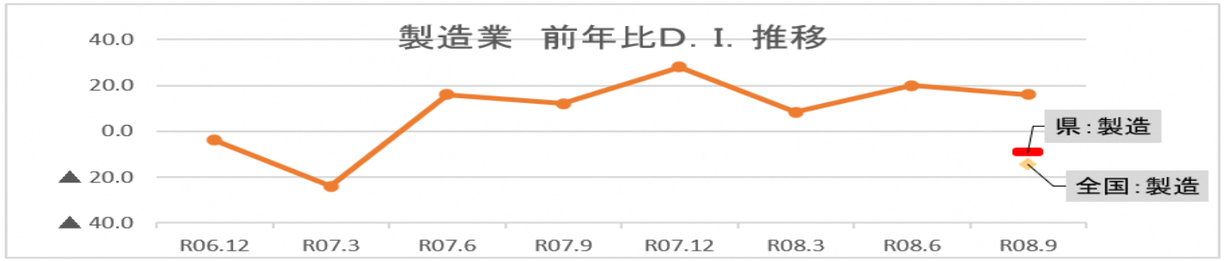
回答率：100%（25/25）

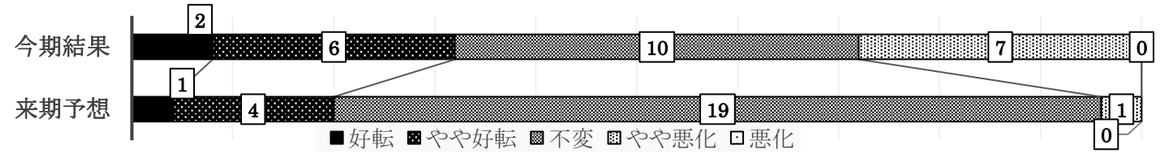
2026年7月～9月期調査



■丹波市の景況推移

DIは前期から低下したもののプラスを維持した。資材の供給不安は緩和し受注も底堅い一方、原材料価格の上昇に価格転嫁が追いつかず収益を圧迫。最低賃金の引上げと人手不足も重なり、コスト対応が最大の課題となっている。





■丹波市の景気動向

【丹波市の今期の景況】

受注状況は概ね順調で、同業他社の廃業や縮小に伴う増産依頼も続き、DIはプラス圏を維持した。原材料の供給不安は緩和し納期遅れはほぼ解消したが、価格は高止まりしている。値上げ交渉が原材料の上昇スピードに追いつかず、大口取引先には転嫁できても小規模な取引先には転嫁できないなど、収益確保に苦慮する事業所が多い。

【丹波市の来期の景況予想】

来期は「不変」とする回答が8割近くを占め、横ばい圏で推移する見通し。10月からの最低賃金の大幅な引上げで人件費負担が増すうえ、扶養の範囲内での勤務を希望するパート従業員に働き控えが生じており、業務の効率や生産性への影響が懸念される。単価の値上げ交渉を年内に進めたいとの声もあり、価格転嫁の進展が鍵となる。

■全国の景気動向

製造業は各DIが改善し、特に業況DIは大幅な改善となった。機械・金属関連では半導体関連需要を背景に受注が堅調で、業況改善をけん引している。一方、食料品製造では原材料や包装資材、エネルギー価格の高止まりが続き、収益確保に苦慮する声が多い。繊維関連でも需要低迷が続き、コスト増への対応が課題である。

■県下の景気動向

業況・売上額・収益の各DIが揃って改善し、売上額と収益はプラスに転じた。次期も全項目で改善の見通し。ただし問題点では「原材料高」が最多、前回は上位になかった「人手不足」が2位に浮上した。

■地区ごとの回答（前年同期比）

	柏原	氷上	青垣	春日	山南	市島	合計	構成比
良い（増加＋やや増加）	1	3	2	1	3	1	11	44.0%
不変	1	3	0	2	0	1	7	28.0%
悪い（悪化＋やや悪化）	0	2	3	0	1	1	7	28.0%
合計	2	8	5	3	4	3	25	100.0%

小売、卸売業

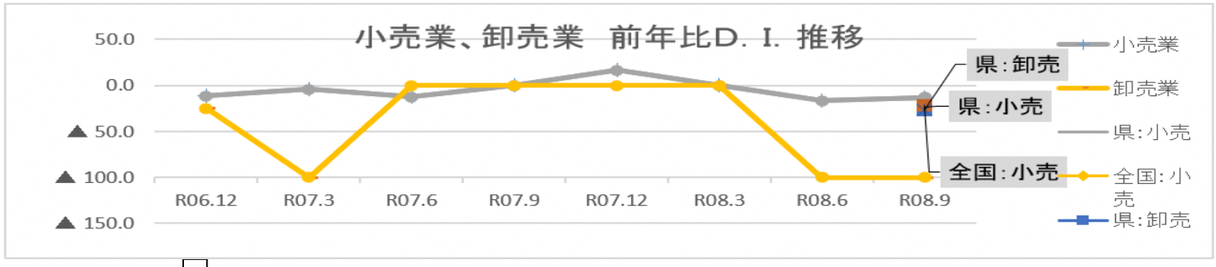
回答率：100%（24/25）

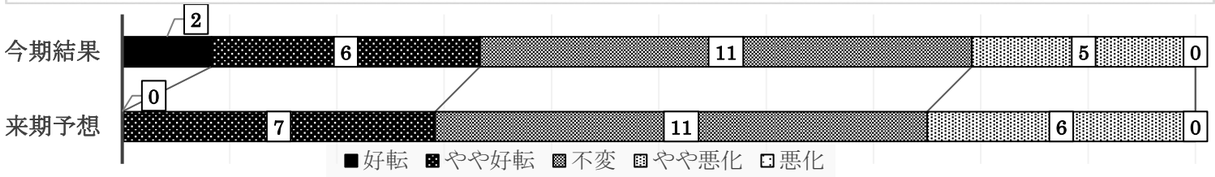
良い　やや良い　普通　少し悪い　やや悪い　悪い

今期 → 見通し

■丹波市の景況推移

前期から引き続き仕入価格や人件費の上昇が経営を圧迫し、厳しい状況が続いている。今期は猛暑による客足の減少が見られた一方、食品小売業では売上が好調な事例もあった。しかし、価格転嫁が追いつかず利益を圧縮する事業所も多く、全体として景況は横ばいから弱含みで推移している。





■丹波市の景気動向

【丹波市の今期の景況】

丹波市内の小売・卸売業では、仕入価格や包装資材費、人件費の上昇が続き、収益環境は厳しい状況にある。顧客離れを懸念して価格転嫁が進まず、利益率の低下が課題となっている。また、猛暑による外出控えで売上が伸び悩む一方、食品小売業では前年を上回る事例もあり、事業所間で業況に差が見られる。

【丹波市の来期の景況予想】

来季は、秋の観光シーズンや年末商戦による消費需要の増加が期待される。一方、仕入価格や包装資材費の高止まりに加え、最低賃金引き上げによる人件費負担の増加が懸念される。価格転嫁が難しい事業所では利益確保が厳しく、SNS 等を活用した販路開拓や集客強化が重要となる。

■全国の景気動向

全国の小売業では、季節需要や観光需要を背景に 8 月は売上が回復したものの、9 月は天候不順や物価高による節約志向から回復が鈍化した。売上額 DI は 7 月のマイナスから 8 月にプラスへ改善したが、9 月は低下。仕入価格や人件費の上昇が続き、価格転嫁の難しさから収益確保が課題となっている。

■県下の景気動向

小売業の業況 DI は前期から悪化した一方、売上・収益は改善した。卸売業では業況 DI が改善したものの、依然厳しい状況にある。仕入価格や人件費の上昇が経営を圧迫しており、今後も業種によって景況の見通しに差が見られる。

■地区ごとの回答（前年同期比）

	柏原	氷上	青垣	春日	山南	市島	合計	構成比
良い（増加＋やや増加）	1	3	0	1	0	0	5	20.8%
不変	3	3	0	2	1	1	10	41.7%
悪い（悪化＋やや悪化）	2	3	0	2	1	1	9	37.5%
合計	6	9	0	5	2	2	24	100.0%

飲食・宿泊、サービス、その他業種

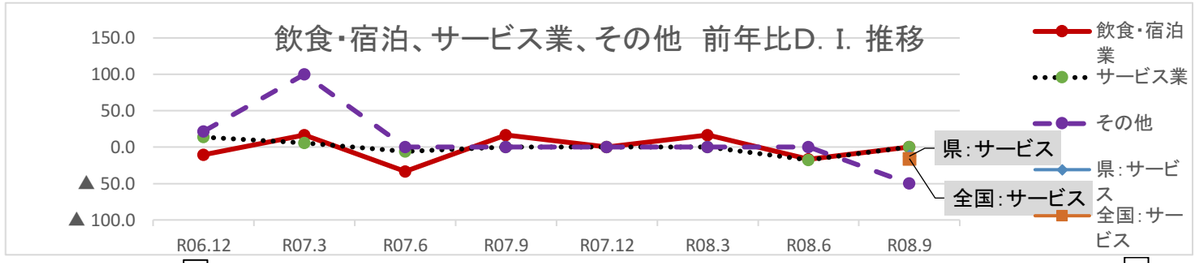
回答率：100%（25/25）

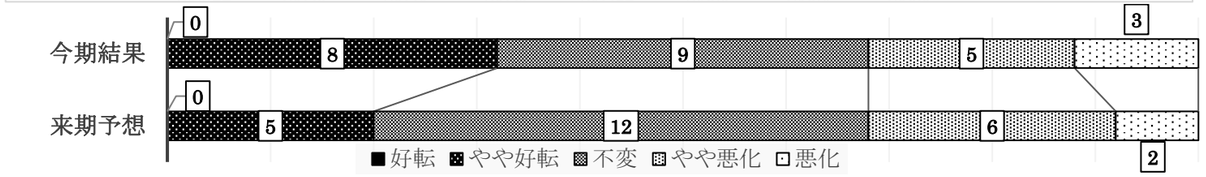
2026 年 7 月～9 月期調査

今期 → 見通し

■丹波市の景況推移

8 月の酷暑で客足が一時低下したものの、9 月以降は秋の行楽・観光シーズン（栗や黒豆等）を迎え、市外からの観光客増加で週末を中心に持ち直した。宿泊や体験サービス等で需要を獲得する一方、仕入費や光熱費・資材等の高止まりに対して十分な価格転嫁ができず、利益圧迫が続く厳しい推移となった。





■丹波市の景気動向

【丹波市の今期の景況】

秋の味覚効果や海外からの客も増えるなどの好材料がある一方、外食の控えや宴会需要の低迷が重しとなっている。食材・光熱費高騰に対し客離れを恐れて価格転嫁が進まず、利益が出にくい状況となっている。さらに高齢化等による人手不足と最低賃金引き上げが重なり、営業縮小を余儀なくされる事業者も見られる。

【丹波市の来期の景況予想】

SNS 発信や新商品開発など集客・単価向上に向けた意欲的な取り組みが進む一方、仕入価格の高止まりに加え、最低賃金の引き上げに伴う人件費高騰やパートの働き控えが懸念される。固定費上昇と深刻な人手不足の長期化が予想され、収益環境の先行きは厳しい見通しである。

■全国の景気動向

サービス業の旅館・ホテルがシルバーウィーク効果で持ち直した一方、飲食店や教育サービスは仕入単価高や人件費上昇、家計の節約志向から悪化した。小規模企業でも観光需要が下支えとなる一方、酷暑や長雨、台風の影響に加え、コスト高や人手不足が採算の重荷となっている。

■県下の景気動向

今期の業況は前回に比べて一時悪化したものの、売上額や収益はプラス水準を維持した。来期予想（10～12 月）では、業況 DI、売上額・収益 DI ともに大幅な改善が見込まれている。ただし人手は深刻な不足超が続いており、人材確保とコスト転嫁が課題である。

■地区ごとの回答（前年同期

	柏原	氷上	青垣	春日	山南	市島	合計	構成比
良い（増加＋やや増加）	0	5	1	2	0	1	9	36.0%
不変	2	1	1	1	1	0	6	24.0%
悪い（悪化＋やや悪化）	3	3	2	1	1	0	10	40.0%
合計	5	9	4	4	2	1	25	100.0%